

英語サポーター研修会の報告

3月3日(火)午前10時から区役所会議室で開催された本研修会は、英語フォーラム、英語活動現場の見学の参加者を主に対象とし、英語サポーターとしてより実践的な内容についての理解と、サポーター同士の交流会という位置づけで開催しました。当日は、30名の参加者があり、フォーラムから続けての参加者の他に、21年度英語活動実施に向けて準備を進めているサポーターや、先進校のサポーターの参加など、幅広い方達の意見交換と交流が行われました。

1 英語活動でのアクティビティについて

前半は、区内英会話教室の代表池上陽子氏をお招きし、ご自身が他自治体で英語サポーターとして小学校英語活動に関わった経験をもとに、AETや担任教師との関係において、サポーターとして理解すべき点などを教えて頂きました。また実際に、英語活動における簡単なあいさつのアクティビティを参加者で体験しました。詳細については、資料①の講義資料を参考にしてください。



2 グループワークについて

グループワークのねらいは、参加者が英語活動に関する様々な課題や考えを出し合い、共有すること。また、サポーターに必要であるコミュニケーション力（対先生、学校、子どもなど）を体感すること、そして参加者同士が知り合い、その後のネットワークに繋げることにありました。



なかでも、話すプロセスによりお互いを知ること、より多くの人と意見交換をすることに主眼を置きました。話し合ったテーマは、第1ラウンドと第2ラウンドを同じテーマとし、第1ラウンドで掘り起こされた課題について、第2ラウンドでは、解決方法をさぐるという手法です。この際、より客観的な意見を第2ラウンドに反映させるため、第1と第2ラウンドのグループメンバーを変更し、第1ラウンドで出された課題について、違うメンバーが取り組みました。大事な点は、第1ラウンドをきっちりこなさなければならないという自覚を持つということ、また第1ラウンドではあくまでも課題の掘り起こしを中心に話し合うことでした。第2ラウンドでは、それぞれの課題への解決方法をより具体化するために、「私ならこうする」「私ならこういうことができる」「私はそれについてはこうしました」という視点で付箋に記入しました。第3ラウンドは、では私たちは何ができるか（We can）という視点で、サポーターのネットワークなどについて話し合いました。最後に、それぞれのグループの成果を壁に貼り、大まかに読みあげた後、英語フォーラムで講師もして頂いた泉頭理恵子氏、前半の講義をして頂いた池上陽子氏に簡単に講評をして頂きました。



(ア) 内容詳細

第1ラウンド

テーマ「小学校英語活動や、サポーターとしての関わりで気になること」

- ① 1分間で自己紹介をする：①名前 ②サポート学校名 ③英語に関する失敗談
- ② テーマについて、一枚の付箋に一件ずつ自分が思いつくことを書く。
- ③ 自分が書いたことを読み上げ、補足説明をしながら模造紙に貼る。
- ④ 全体で意見交換

「こうしよう、こうできる (I would)」、「こうしたことがある (I have)」を出して、前向きに。

第2ラウンド

テーマ「第1ラウンドで出たことについて I would と I have」

- ① 1分間で自己紹介をする：①名前 ② サポートしている、したい小学校
- ② 模造紙上にある付箋の横に、色違いの紙を用い一人一人 I would, I have を書いて付けていく
- ③ 自分が書いたことについて補足説明をする
- ④ 全体で意見交換

We can (わたしたちは何ができるか) を書いた

第3ラウンド テーマ「サポーター同士の情報交換、勉強会、ネットワークについて We can」

- ① テーマについて、一枚の付箋に一件ずつ” We can・・・” を書く
- ② 自分が書いたことについて読み上げ、補足説明をしながら模造紙に貼る。
- ③ 全体で意見交換をする

(イ) 成果

グループワークの成果は模造紙に貼られた付箋に書かれた意見です(資料②3月3日グループワーク成果参照)。資料②の見方は、黄色は第1ラウンドで出された意見、青色は、第1ラウンドで出された意見に対しての、自分ならこうする、こうできるという意見(全ての黄色に対して意見が出た訳ではありません。黄色に重なっているものが関連意見です)、緑色は、第3ラウンドで出された、では「私たちはどうする」という意見の内容ですが、黄色青色の意見との位置的な関連性はありません。空いているスペースに貼り付けされているだけです。当日模造紙に貼られた状況を出来るだけ忠実に再現しています。

(ウ) 考察

第1ラウンドで出された課題は大きく二つに分類ができる。まず、サポーターの指導方法や関わり方に関するもの、もう一つは担任教師またはAETとの関係に起因するものである。

まず、サポーターの関わり方については、英語フォーラムでも横浜市が進める英語活動におけるサポーターの役割や位置づけについて言及されていたが、特にこれから英語サポーターになろうとする方や、十分な説明をまだ受けていない場合には、英語活動に関する考え方などについて、より理解を深める必要があると思われる。フォーラムのアンケートからも、一般的にイメージされている英語活動と、来年度から小学校にて進められる英語活動には隔たりがあり、特に英語サポーターになる人々は、既成概念や経験の豊富さから認識の隔たりは大きい可能性が高い。まずは学校職員やAETを交えて横浜市が進める英語活動について理解を深めることが必要だと思われる。指導方法についての意見は多様であるが、英語に関する個々の知識や経験に大きく左右されていると思われる。本講座では、サポーター未経験者とサポーター経験者が参加しており、多くの課題についての解決方法が提示されていたことから、知識経験の向上とともに解決されていくことも多いことが伺える。サポーターが自ら考え経験を積みながら解決していくことは良い面もあるかもしれないが、研修などを通じて事前に知識を身に着けることによって、不必要な苦労や悩みを抱えないよう、そしてより質の高い英語活動の提供に専念できるような体制も必要ではないかと考えられる。

もう一つ多くあったのは、担任教師やAETの関係についての意見である。特に担任教師との打合せの時間が持てないと言った声が顕著である。担任が多忙なため時間がとれないということを理解しつつも、英語活動への

関わり方への不安や、打ち合わせ不足が英語活動の質に影響すると考えており、ジレンマを抱えている様子が伺える。解決方法には、短い休み時間などを利用して打ち合わせをするといったものもあったが、学校や担任の考え方や対応に大きく左右されていることが考えられる。こうした問題の解決策としては、学校としてどのようにサポーターと連携していき、お互いに限られた時間内でどのように準備や反省を重ねていくのか、事前に十分な協議と理解が不可欠だと思われる。立場的に率直に担任教師に意見を言いにくいという意識があることも伺えることから、サポーターのこうした気持ちも考慮した形で学校側はどのようにサポーターとコミュニケーションを図るべきなのかについても考えることが、円滑な英語活動の推進に繋がるのではないかと考えられる。

今回、グループワークの最後で、サポーターとして今後何が出来るのかについては、多くの参加者からこうした意見や情報交換の場の必要性の声があった。前述のように、経験不足なサポーターが多い中、日々の活動に関する不安も多いため、先輩サポーターも参加した本研修会で得たものも大きかったようである。知識や経験の向上を図るための研修の必要性と、他校のサポーターと繋がり意見交換をすることによって、さらなる英語活動の質を高め、そして子どもたちの教育に関わっている充実感や喜びを共有する機会が必要であることがわかる。こうした機会を継続的に提供していくことが、体制作りも併せて必要と考えられる。

教室での英語活動におけるサポーターの役割

小学校の英語活動では、担任主導＋外国人 AET が配置される場合、サポーターは生徒にとって存在感が薄いかもしれません。しかし、担任や AET ではないのに教室に入るのはそれなりの役割があるからだと思います。私は、英語など外国語を話す日本人としての役割は「英語がしゃべれる近所のおばちゃん（おじちゃん）」として認知されることで「日本人でも英語が上手にしゃべれる人がいる＝自分もいつかそうになれるかもしれない」という夢、自信を子ども達に与える存在、と捉えています。

ですから、単に語学として英語ができる指導補助員、というよりは、日本人だけど国際社会で堂々と生きている大人、として子ども達に見知ってもらえたら良いのではないのでしょうか。

それを踏まえて、子ども達の出会いとのきっかけ作りとなりそうなアクティビティをご紹介します。

【班別ゲーム：挨拶キャッチボール】

用意するもの：柔らかいボール（ハンドボール大がベストですが、野球ボール大でも OK。ハンドボールより大きいと邪魔です）。その他、フェルトで出来た野菜や果物、動物等のぬいぐるみでも OK

5～6人の生徒とサポーター1人が、肩と肩が触れ合うくらいの輪になります。

<準備ゲーム>

サポーターが“My name is <first name>. What's your name?” と言いながら、隣の生徒にボールを渡します。ボールを受け取った生徒は同じように“My name is <first name>. What's your name?”といて、反対隣の生徒にボールを渡します。

このやり方で何周かして、みんながフレーズを覚えたら本番です。

<キャッチボールゲーム>

サポーターが“My name is <first name>. What's your name?” と言いながら、生徒の1人にボールを投げます。ボールを受け取った生徒は同じように“My name is <first name>. What's your name?”といて、別の生徒にボールを投げます。

注) 同じ生徒にみんなでボールを集中攻撃することがありますので、あからさまにとがめるのではなく“**We know her name!** 他の子の名前も知りたいな”などのように、英語も混ぜつつ公平にボールが回るよう仕向けましょう。

発音は大事ではない、というのが建前のようなのですが、I'm や name の“m”、What's の“ts”、first の“f”など、日本語ととくに発音の違う子音は、間違っていると中学へ入ってから文字とのつながりを作りにくくなり、英語学習、特にリスニングに悪影響を及ぼすので、とくにサポーターは口を大きめに動かし、できない子には、ダメとは言わず、“**Look at my mouth, please!**”などの言葉掛けで正しい発音を教えるよう心がけましょう。

<応用ゲーム>

ボールの代わりに果物や動物などの場合

“Do you like <fruit/animal>?” “Yes, I do./No, I don’t” “What about you?” “I do too./Me neither.”など応用会話につながる。

すでに果物やスポーツなどの名詞をたくさん覚えている場合、“I like <fruit/sport/etc>. What do you like?” などのように、応用フレーズでも行います。この場合、2回目に回って来たら違うものを答えなくてはいけない、というルールにすると、習ったことを一生懸命思い出そうとします。

KEY POINT

教えるのではなく手本となる

注意するのではなく、良い方向性を示す

ちょっとでもできたら大げさに褒める

いつも笑顔で大きな声

以上4点に気をつけるだけでクラスの人気者になれると思います。ただし、いつも怒ってばかりの担任のクラスだと、優しく楽しいサポーターの存在で先生の立場がなくなることも・・・それはサポーターには関係ないですけど、言われもなく担任に嫌われることがありますので要注意・・・。



英語に関して子どもたちがもっている知識の差がある時、それをどのように授業として成立させるのか。子ども全員に満足させられるのかどうか疑問です。

発話するまでインプット…「話す」まで必要だが、もっと話す「意義」「目的」「意欲」「モチベーション」を高めていく内容が大事であろうと思う。

あくまでも担任が主体となる事が疑問。あまり話せないかもしれない、正しくはない音は、子どもに聞かせない方がよいのではないかと考えてしまいます。

英語とは小学校の授業として行うものなので、子どものことをよく理解している先生（担任）が主体で当然と思う。発音は世界中でいろいろな「なまり」のある英語が話されているので、「正しい発音」はあまり意味がないと思う。

どの程度の上達を期待しているのか知りたい。(英語活動という意味があいまいなので)。

上達は期待しないでよいと思う。小学生なので英語が楽しいと思えるレベルでよいのでは。

英語は楽しいものだと思ってもらうための授業とされています。(英語を上達するための授業ではない)

クラス担任とのコミュニケーションを授業前にきちんととれる時間を十分もてるだろうかという心配がある。どんな流れで授業を行うかをあらかじめ、知っておき、サポーターとしての役割を把握しておきたいので

I have
桂小では低学年 授業のない5時間目に打ち合わせ
中学年~5年生 月1回 1時間 (5時~6時)
6年生 先生が忙しそうでなかなか難しいですが (以前は30分休みで打ち合わせ)

AET、担任、サポーターがそれぞれ持ち味を生かせるように。

英語教育なのか慣れ親しむetcなのかについて皆が共通理解をしているか

小学校では英語に慣れ親しむでいいと思う。

暴走する子どもの扱い方にとまどう

暴走する子のそばにつくようにしている。
すねてしまう子どもの場合は、放っておくこともある

調子はどう?とかうまくいってる?と日本語で声をかける。

担任の先生のクラス運営のやり方によって子どもたちの意欲や取り組み方に差がみられる

良い教材を選ぶ(作る)には?CDなど

英語活動小学校
・緑区で山下みどり台小学校で4年間サポーターを続けている

22年度から小学校英語が担任がやるということ、4年以下、5年以上の時間が決められていることのみで、それ以外は決まっていないので、サポーターの位置づけは学校ごとに違う

担任教師へ助言しても良いかどうか

先生によると思うが、助言してほしい先生もいらっしゃる。助言を求めてくる先生に対しては、新鮮に教えてあげるのが、サポーターとしてのお役目だと思う。ただし、先生を立てるという意味でなるべく生徒の前はさける

AETとサポーターとのかわり方(授業において)

I would
休み時間などにAETの人と話す機会を使ってお互いにコミュニケーションを取っておくと授業がやりやすいと思います

AET、担任との打ち合わせ時間があまりとれない。他のサポーターとのコンセンサスがとれない

担任が使う英語が間違っている時、訂正するタイミングが難しい。授業後では、生後が間違っていて覚えているかも・・・でも授業中は無理

既にならった単語 sit down や stand upなどは積極的に使っていてほしい。担任は、「座ってー」や「はい立ってー」など日本語で指示を出すので

I would
サポーターがいつも使っていると先生もおのずと口から出てくるので、恥ずかしがらずに大きな声で言うてはいいかが?

今日初めて皆さんのお話を聞いて率直に感じたことは同じサポーターでも学校の対応が非常に異なる。横浜市も22年度までに全体として同じ方針となると思われるので、良く情報を交換して役に立てていくべき

クラスルームイングリッシュをどこまで使うか。低学年~高学年で違いを持たせるか

担任の先生の関わり
・クラスにより非常に差がある
・内容をしっかり把握していない先生もいる
・先生ご自身も楽しんで頂きたい

打ち合わせ時間の不足
充実した活動にするためには必須かと思いますが、先生との打ち合わせ時間がとれず、どのように参加してよいのか迷うことがあります。

先生との打ち合わせの時間がなく、担任の先生がその日にレッスンプランにないことを突然始めた時にとっても困ります。打ち合わせの時間を確保するのは忙しい先生たちにとってもサポーターにとっても難しい問題です。

高学年になるほど先生がお忙しく、打ち合わせの時間がとれない

こま切れの時間を活用する。(休み時間 etc)

サポーターまたサポーターを志望する方々との交流会が定期的にあるといい

サポーターメーリングリストをつくり登録して、アイデア、体験談をシェアする。

力を高めるコミュニケーションとは？

自分を表現する。
相手に伝えたい
聞いて理解しよう
共に学ぼう
→意欲を高める内容の教材、テーマ別学習

大きな声を出せるかどうか心配

子どもが好きであればやりくりできると思います。

前回見学して感じたことは、小学生のひとつこと(つぶやき)をもっとサポーターがとらえて repeat したらよいと思った。

同じ学校のサポーター同士の意見を交換する機会が今まで無かったので、出来れば先生を交えて勉強会としてあると良い。
他校のサポーターの方達と話す機会を今回設けてもらい参考になりました

サポーターのための研修会

忙しい、教師の方々をサポートするための良いCD、教材(市販と限らず)を検討出来ればと思います

つまらなそうにしている子やついていけない子にどの様に接したら楽しく参加できるかもう少し練習させてあげたいが、その時間がないことがある

英語は難しいからわからないというお子さんがたまにいらっしゃるのですが、そういう時は横について、ゆっくり何度も声をかけるよう心がけています。楽しんでやっているより、そういう子を見つけるようにしています。

サポーターの役割を忘れて授業に参加してしまうのではないかと心配

英語活動の時間への切り替え、雰囲気作りとしてサポーターがムードを作り先生、生徒を盛りあげる

小学校英語と民間英語との指導法の違い

違いを理解し、それを学校の実態に合わせて工夫するだけでいい。違っていい。

自分がサポーターをしながら「これが子どもたちの役に立っていくのだろうか？」と毎回自問自答をしています。特にサポーターとして活動しはじめた頃によく思いました。

先生から言っただけでない場合は、「先生にどうですか？」と一言聞いてもいい。

小学校で英語活動が始まっていないので、具体的に何をすれば良いのか、サポーターの役割が決まっていない。スタートまでに何を準備しておけばよいのか不安です。

こちらから先生に聞いてみる。打ち合わせの時間をとる

Shy な子どもだけでなく、自分の意見を言うことは難しい。小学校で中途半端な英語を教えることはかえってマイナスが多いと感じる。思考は母国語で考える思考回路が出来ていない小学生に英語を教えることはマイナスの方が多いのではないかと思う

Shy な子は英語どころか日本語でさえ一前では大きな声で話せないのでは？

小さなグループの中で少しずつ声を出せるように見守ってあげたいと思います。

学習自体も初めての事で、スタートした「英語の授業」サポーターとしての立場、準備、どのようにしたら、いいのでしょうか？

担任の先生がまちがった英語を書いたり、教えたりしている時にどこまで打ち出しているのか

青葉区内だけの話し合いで突き進んでいくのは横浜市との連携という点で大丈夫なのでしょうか？

子どもたちがゲームに熱中すると日本語だけしか言わなくなる。そういう時、どの程度まで介入して英語を言ってもらえばいいのか迷う。

はずかしそうな子のとなりに行って、日本語で「一緒に言ってみよう。せーの」などと声かけをする

英語に慣れ親しむ雰囲気にはたむけのためにもゲーム中日本語で話そうとする子は英語で話しかけたりジェスチャーを使って表現すれば良いのでは。

基本的に英語でいいと思いますが、理解できないと混乱してしまってよい方向にいかないと判断した時は、日本語で説明したりしてもいいと思います。

小学校英語は楽しいが一番大切だと思います。サポーターとして英語という言葉が世の中にあって、好きとは言わないまでも、少なくとも楽しいじゃんとの心の中にとどめる為の助けができればと思います。

他校のサポーターの方の意見、アドバイスの交換をしたい。他校の打ち合わせ会にも参加して段取りなどを学びたい

困ったことが起きた時、疑問を持った時、各校からアドバイスが欲しい。

会員制の掲示板などがあれば、気軽に相談出来るのではないのでしょうか？

授業の内容の打ち合わせを余裕を持ってやってもらいたい。

わからない、はずかしそうにしているお子さんには、どのくらいサポーターが声をかけて良いのか（先生に任せた方がよいのか）迷うことがあります。

AETと担任でさえ、打ち合わせがうまくいってないこともある。担任の意識によるのかも。担任は忙しく本当に時間がなさそう

先生の打ち合わせの時間、サポーター同士での意見を交換できる時間を少しでも持ちたいです。

何年もやっている学校の英語サポーターの話聞く機会と定期的にもって長所や改善する所を出してもらいたい。子どものいろいろな力を伸ばすお手伝いとして、存在していると思うので。

ブリティッシュ英語、米国の英語又は、英語を母語としない英語があり、発音、マナー等といったこと。

一度問題が出た時に学校側で米語中心に教えると決めていただいたと思います。

英語を教えるというより、英語を使う機会の提供を考えているので、細かい点はあまり気にしていません。

公開授業時の落語英語のDVD欲しいけどご協力ください。

桂小にあると思います

サポーターはあくまでも授業のサポートだと認識していますが、担任の先生に質問されることも多く、実際はサポーターが授業をすすめてしまっていることがあり、どこまでサポーターが関わっていいのか戸惑うことがあります

サポーターのスタンスは、子どもたちの応援団が第一、次が先生方のアドバイザーだと思います。授業中に食い違いがあるのはどうかと思うので打ち合わせ、or 反省会などが必要？

サポーターの役割について
AETはネイティブ
サポーターは英語がしゃべれる日本人担任はクラスのコーディネーター
基本的、担任が授業の流れを担当し、AETとサポーターで内容を進めていくものだと思います。（その時担任は子どもと一緒に英語を勉強する日本人の立場で）

事前打合わせはどの程度
行うべきか？

I have
打ち合わせの時間は、多い方がいいですが、先生も忙しく、私自身も仕事を持っているので、難しいのが現実です。今は、大まかなレッスンプランで授業 5 分前に打ち合わせるだけです。(夏から研究授業とミーティングを数回やりました)

他校のサポーターの方々と横のつながりがないのでこのような機会がなければ情報交換はむずかしいです。ある学校に見学に行きましたが、あまり参考にしたい授業ではありませんでした We can...なにができるでしょうか？

サポーターは授業中は全て英語で話すべきか？何を言ってるか分からない子どもに対する接し方

こういった研修会で他校のサポーターの方と交流を持てるのはとても貴重。今後こういう機会がふえるとありがたいです。自分の子どもの学校のサポーターだけでなく他の学区に行くのもありかなと思います

全ての英語というのは子どももひくと思うので、様子をみながらいいと思います

AETの方や担任の先生によってサポーターの役割が変わったりすること

1 回の授業にサポーターは何人入るか？

I have
1 クラスにサポーター1 名です。※AET, 担任との3 人組の時もあれば担任とサポーター2 人組のときもあります

担任が用意してくれた手書きの絵がトピックと少しずれている時はどうしたらいいんでしょうか？

小学校で教える英文が正しくなくても、正さなくても良いこと。

授業中どこまでどんな時に日本語を使うか？

クラス担任との役割分担担任によって考え方が異なり、とまどう時がある

I have
1 クラス 担任+AETプラスサポーター2 名です。全学年 23 クラス、サポーター23 名？

I would
折角先生が用意してくれているのだから、少しはそれを利用してもう一枚小さなものを作るなど

担任の発音がおかしい時、すぐやり直していいの？

現場の先生の本音を聞き、せっかく小学校一年生から英語を始めるのなら、持続可能な方向・方法を求めて行くべきだと思います。サポーターの立場から、もう少し明白になると活動しやすいのではないのでしょうか

AETと担任の先生方からサポーターがどのように評価されているのか不安

I agree
今回のようなサポーターの研修や懇親会があるといいですね。

I would
なぜあくまで担任が教えることにこだわるのか疑問です。音楽に専任の先生がいるように、英語もサポーターやAETが主導となっても良いのではないかと思います

I would
あまりにもおかしい時は失礼にならない程度にさりげなく後から言う。決して「違う」とは断言せずに・・・。

やる気のない子どもをやる気にさせるのは大切だが、特定の子供にばかり時間をとれないが、ほおってもおけないので難しい

クラスにふざけすぎる子どもがいる場合のサポーターとしての関わり方が難しい。

子どものことは担任が一番わかっているのでお任せするのがいいと思います。

We can
定期的な情報交換を行える回などができて市内の小学校の英語活動がより良いものになればうれしい。この活動で得た知識が担任やAETにうまく伝えられる場があるといい

a, an はいつから教えてもいいの？

I would
ネイティブの人は an が母音の前につくとか意識していないので、とにかく最初から an がつく単語は an を付けて話した方がいいのでは。

We can
サポーター同士のネットワークを作り定期的に勉強会を開く

グループに分かれた時、子どもたちに英語を話してもらえるようにコントロールするのが難しい

I have
日本語でゲームが進行しているグループの中にどんどん英語で入っていきます。中学年以上だと「話したいけど、はずかしい」という子が増える気がしますが、きっかけがあれば、英語を話したい子がほとんどだと思います

本来なら小学校教職課程に英語という項目が加わり、英語を専門とする小学校教員が世に出たら活動を始めるべきではないかと強く思います

今日の参加についてメールを頂いて参加を決意しました。勉強会で学んだ内容を参加していない時にはメールでお教えて関心の流れをとだえさせないようにしては

We can
各学校の実際の授業を見学して回りそれについて話し合う。

英語に関する取り組み方が学校により、かなり差があると思います。これから始まる学校については特にすでに始めている学校の情報が貴重であると思うので情報交換会のような場を2か月に1度程度でも設けるのは有効